

ものづくり産業等理解促進事業（案）について

1 目的

小中高校生など次世代人材の進路決定に大きな影響を持つ保護者のものづくり産業（食品工業含む）に対する理解促進や地元企業との交流促進を通じ、次世代人材の地元ものづくり企業への就職促進を図るなどにより、地域のものづくり産業の振興を促進する。

当初計画案	WG検討後修正案	修正の考え方
<p>2 対象 中学生・高校生及びその保護者 (状況に応じて教職員)</p>	<p>小学生・中学生・高校生及びその保護者</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者を巻き込むためには小学生まで含めて幅広に設定。(兄弟が中高生というケースも想定される。) セミナーの単独開催を中止し、工場見学会も地域単位での一般公募事業としたことから、教職員の関与する度合いが極端に低減。
<p>3 内容</p> <p>STEP 1 セミナー</p> <p>ものづくり産業の現状・将来性や、地元企業によるプレゼンテーションなどを含めた、セミナーの開催(学校における三者面談の場などを活用)</p> <p>○ものづくり産業の現状等 地元 商工会議所・商工会、指導機関等</p> <p>○地元企業によるプレゼン ものづくり産業の魅力、先輩たちの活躍の状況等</p> <p>○工場見学会の紹介・募集 工場 見学会の内容紹介と応募用紙の配布</p> <p>○その他 ・セミナーは基本的に1時間以内として、出席者の負担感を軽減 ・地域の実情に応じ、中学校または高校で複数回開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> セミナーの単独開催は中止。 代替策として、各圏域ごとのものづくり産業（食品工業含む）の現状や入社2～3年以内の若手従業員のインタビュー記事等で構成する資料を作成。 工場見学の際に企業からの講話と上記作成資料の説明によりセミナーの代替事業とする。 また、ジョブカフェ北海道が実施している高校生向けの就職セミナー（地域産業理解促進事業）と連携し、上記作成資料等の説明により、ものづくり産業への理解促進を図る。 ↓ その際、保護者へもセミナー開催を周知し、併せて、保護者の理解促進も図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校における行事については、前年度に年間スケジュールを決めており、当該年度に新たな事業を組み込むのは、スケジュール的、組織的に難しい状況にある。 今回の事業は、ものづくり産業に対する理解促進が主要な目的であることから、セミナーは実施しなくても、ものづくり産業の現状・課題や若手従業員の生の声などの情報提供は行う。 ジョブカフェ北海道が実施している事業は学校側のニーズが高く、その事業と連携することは有効と考えられる。
<p>STEP 2 工場見学会</p> <p>見学先については、地元ものづくり企業とし、出来れば求人を実施している企業とする。 (複数回開催とし、1回は食品工業とする。(出来れば水産加工業))</p> <p>○見学に際しては、基本的に生徒と保護者のセット</p> <p>○実施内容 経営者による講話、工場施設見学、参加者に対するアンケート調査</p> <p>○実施地域、回数 道内6地域(道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室) ×3回 計18回</p> <p>○参加見込み数 1回当たり40組前後 (参加者の状況に応じて、複数校共同あるいは中高共同開催)</p>	<p>見学先については、各圏域内のものづくり企業（食品工業含む）とする。 (複数回開催とし、水産加工業も含む。)</p> <p>○見学に際しては、基本的に児童・生徒と保護者のセット</p> <p>○実施内容 講話等の情報提供、工場施設見学(可能であれば、ものづくり体験)、参加者に対するアンケート調査</p> <p>○実施地域、回数 道内6地域(道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室) ×2回以上 計12回以上 (うち食品工業は6回以上、6回のうち水産加工業は3回以上)</p> <p>○参加見込み数 1回当たり10組以上 (受入企業の状況に応じて調整。地域単位での一般公募開催。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「地元」を「各圏域内」とし、受入企業の対象を拡大。 水産加工業の視察も明記。 小学生も対象とすため。 上記資料の説明を追加したことにより、「情報提供」に変更。 参加者の満足度を向上させるため、ものづくり体験を追加。 事業実施期間を勘案し、各圏域ごとの開催数を軽減。 食品工業の理解促進を図るため、開催数を明記。 食品工業における工場見学の受入可能数が低いことから、参加人数を軽減。 募集に際して学校を介在しないことを明記。